社会とのつながりを深め、高速道路が持つ「可能性」を追求し、「価値」を最大化していきます

事業環境の変化に対応し「自立」と「成長」を実現

2011年4月、当社グループは、「自立と成長」をテーマとする「中期経営計画2015」を発表しました。いかなる外部環境の変化をも乗り越えて「自立」し「成長」し続け、高速道路を通じていっそう社会に貢献していくための5年間の道すじを示したものです。

グループビジョンとして掲げた「自立」と「成長」は、これまでの決められたことを着実に全うするというところから一歩踏み出し、自らが発想し、実行していくことでさまざまな変化に素早く対応し、新たな価値を創出し続けていくことを目指したものです。高速道路を最大限活用し、社会とのつながりを深め、価値を最大化していきます。

「100%の安全・安心」への挑戦

当社グループでは、「お客さまの安全・安心」を最優先課題に、交通安全対策や道路構造物の老朽化対策などを進めています。

お客さまに100%安全で安心して利用していただける高速道路を目指して、中期経営計画において、「5年間で死傷事故件数を2割(約300件)削減し、死傷事故ゼロの日を3倍(40日以上)にする」という目標を掲げています。交通事故データをもとにアクションプランを策定し、注意喚起標識の設置など交通事故抑制対策に取り組んでいます。

また、老朽化が著しく進展している構造物に対し、早期に抜本的対策に取り組み、重要な社会インフラを次世代に引き継ぐ取り組みを推進しています。

災害対応力の強化

高速道路の災害対応力の強化も私たちの重要な使命です。災害発生時に速やかに高速道路を復旧して、被災地域の救援・復旧・復興に貢献できるように、東日本大震災の教訓を踏まえ、想定を超えた広範囲の激甚災害にも対応できる仕組みの構築を進めています。被害想定の見直しや防災担当部門の強化など、今後も引き続き、実効性ある対策に取り組むとともに、関係機関との連携を加速させ、災害対応力の強化を図っていきます。

地域との連携強化

高速道路に対する周辺自治体などの期待にこたえ、地域との共生を目指した取り組みも進めています。2011年度は、事業創造委員会を中心に、グループを挙げて今後の成長と関連地域の将来を議論し、各地域、各種事業者との連携を追求しました。2010年5月から進めてきた周辺自治体と「包括的相互協力協定」の締結は、2012年5月までに22府県3政令市に広がっています。

周辺地域全体の活性化も目指し、各府県との協力による観光振興プロジェクトを立ち上げています。今年は、近畿、中国、四国、九州を貫くドライブラリー「やまとごころ周遊記」を実施するなど、広域展開にも取り組んでいます。

ブランド戦略によるお客さま満足の向上

多様化するニーズに応え、「お客さま満足度のさらなる向上」を図ることも、中期経営計画の重点施策のひとつです。その実現に向けて、サービスエリア・パーキングエリアを「くつろぎ、楽しさ、にぎわい」を実感していただける「お客さま満足施設」への変革を図っています。地域性や交通特性などを踏まえた店づくりや品揃えによるブランド戦略を進めており、日常的なご利用にお応えするエリア、地域の特色を強く打ち出すエリア、特別なコンセプトを持ち、旅の目的地となるエリアという3つのブランドを展開し、魅力を高め、より多くのお客さまにご利用・お楽しみいただけるサービスエリア・パーキングエリアづくりを進めます。

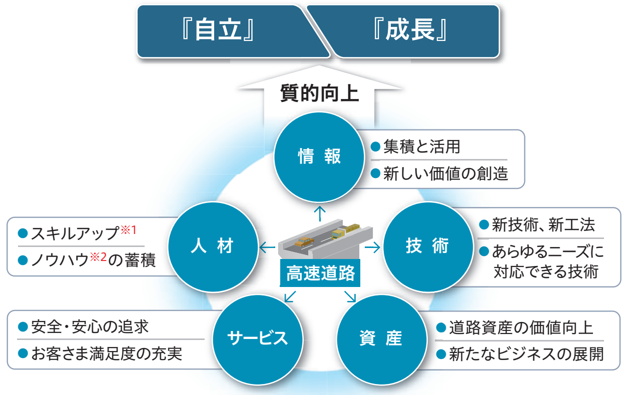
NEXCO西日本グループ中期経営計画2015

グループ理念

私たちはお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループを目指します。

当グループは、高速道路の重要な社会的インフラとしての使命を果たし、常にすべての活動において、企業の社会的責任(CSR)の遂行を共通の目標とします。

グループビジョン ～『自立』と『成長』～



※1 訓練して技能を身につけること　※2 専門的な技術や技術競争力の基となる情報・経験

グループ戦略

"We create new value" Team西日本

当グループは一体となって、これまで培ってきた技術的な資産や経験を統括し、高速道路の価値の最大化と事業システムの高度化を実現します。

価値の最大化

国民資産である高速道路のネットワークバリューを増大させるために、高速道路を幅広く活用して、付加価値を創造します。

更には、グループ全体が保有するスキル・ノウハウを高め、お客さまの満足度を最大限に向上させます。

事業システムの高度化

徹底した業務の効率化のもと、企画から実施までグループ内で実証することで、技術品質及びお客さまの満足度を向上させます。

グループ全体の各事業において連携強化を図り、常に業務の点検・改善を繰り返すことにより、事業システムの高度化を図り、道路事業のトップランナーとしての役割を果たします。

環境にやさしい高速道路を目指して

高速道路事業を進めるにあたっては、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3つを重点テーマに据え、環境保全・改善に積極的に取り組んでいます。

2011年から、大分自動車道・山田サービスエリア(下り線)をあらゆる角度で環境に優しいエコサービスエリアとして整備し、低炭素社会の実現という観点では、1メガワット規模の太陽光発電設備を導入し、CO_2排出量ゼロを目指した実証実験を行い、新たな環境技術の導入を推進しています。

また、高速道路建設による自然の消失を最小限に抑えるとともに、動物の移動経路の確保や河川の付替に伴う生物の代替生息地の整備などにより、地域の生態系の保全や多様性に配慮し、将来にわたり自然と共生できる高速道路を目指してまいります。

高速道路事業システムのさらなる高度化

当社グループがこれまで培ってきた技術的な資産や経験を結集し、徹底した技術品質の向上により高速道路事業システムのさらなる高度化を図っていきます。

具体的には、デジタル機器を用いた橋梁点検技術の導入や健全度評価及び点検データの蓄積により、劣化予測・診断の高度化を目指すとともに、補修技術開発会社とコンサルタント会社をグループ化し、高速道路の点検から補修までを一貫して行う「道路の総合診療」の実施により、技術品質の向上とコスト削減を実現し、更なる「安全・安心」をいっそう向上させていきます。

新名神を「未来につなぐ信頼の道」へ

日本の新たな大動脈として、「新名神」事業に全面着手しました。激甚な災害が発生した場合でも、道路サービスを間断なく提供し続けることが最大の使命と認識し、万全な防災・減災対策を講じるなど、その信頼性を格段に高めてまいります。

あわせて、最先端技術の導入により、安全、快適な新しい交通サービスをお客さまに提供し、環境への配慮とともに、地域の防災・活性化に貢献する新たな機能を創出するなど地域社会にとっても無くてはならない道路となることを目指してまいります。

当社グループは、国連グローバル・コンパクトの10原則を支持し、2009年12月からその活動に参加しています。人権・労働基準・環境・腐敗防止に関わる10原則を遵守することは、海外でも事業を展開していく当社グループにとって重要なCSRです。

今後も、当社グループはコンプライアンスの徹底はもとより、CSRを経営の根幹に据えて、高速道路の価値の最大化に努めてまいります。

ステークホルダーの皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

石塚 由成